

# 子どもたちが主役です！ 第11回「東海村子ども芸術祭」

村内の各小学校の児童による書道・絵画作品を展示するほか、ダンスや合唱などのステージ発表を行います。子どもたちの素晴らしい作品と発表を、ぜひご覧ください。



## 書道・絵画作品展

12月2日(土)午後1時～5時、  
12月3日(日)午前9時～午後5時

書道は各小学校選定作品(1・2年生は硬筆、3年生以上は毛筆)のほか、「東海村エンジョイ・サマースクール2023」夏休み子ども作品教室選定作品を展示します。絵画は各小学校選定作品(1～6年生)を展示します。

## ステージ発表

12月3日(日)午後0時50分～4時30分

ジャズダンス連盟、モダンダンス連盟、フラダンス連盟、よさこいソーラン連盟、東海村少年少女合唱団、東海太鼓保存会が出演します。

場所▼東海文化センター

入場料▼無料

## 【問い合わせ】

東海文化センター(☎282-8511)

ふるさと歴訪  
〜自然を探して〜

## 「新川とウナギ」長さ7キロメートルの驚き

茨城県環境アドバイザー  
川島 省二

東海村を流れる新川は、河口からわずか7キロメートルほどの単独河川でありながら、夏期には海からボラ、スズキ、マハゼなど、淡水と海水が混じり合った汽水域を好む魚が川を上がり、寒冷期にはサケが遡上して産卵します。絶滅危惧種であるニホンウナギやミナミメダカまで混生する県内多数の生物多様な水辺空間が広がっています。

筆者は、新川で水辺学習会を開催する機会がありますが、その都度、必ず確認できる魚がニホンウナギです。その生態は海で孵化し、川や湖に遡上して成長、産卵時は海に戻る「降河回遊」と呼ばれる行動をとります。夜行性で、昼間は砂の中や岩の割れ目などに隠れており、夜になると活発になって甲殻類や小魚、カエルなどを食べます。

当種は、昔から我が国の食文化に根付いている魚でありましたが、近年まで、どこで産卵しているのか不明でした。しかし平成14(2002)年6月に、東京大学大気海洋研究所が、ニホンウナギの産卵場所がマリアナ海嶺のスルガ海山付近であることを突き



【ニホンウナギ】

止めたことを機に、シラスウナギが黒潮に乗って日本の川に遡上してくることなど、生態系の解明が次々に進みました。その一方で、海洋環境の変動や生息環境の悪化、稚魚シラスウナギの過剰な漁獲などのさまざまな要因によって激減している種でもあります。このためニホンウナギは、平成25(2013)年2月に「環境省絶滅危惧IB類」に、平成26(2014)年には国際自然保護連合(IUCN)により「絶滅危惧種」に指定されています。このように減少しているウナギが、生息地として新川を選ぶ理由は何でしょうか。それは、昔から変わらない豊かな田園地帯が残されていること、適切な水量と水質が維持されていること、育つために必要な餌が豊富なことに尽きます。そして、よく見られる風景として、新川を気にして道路や橋の上からのぞき込む方が多いことです。それだけ新川に関心を持たれる地域の方がいることが、この川が守られてきた原動力になっていることを感じます。